

## 再評価結果（平成28年度事業継続箇所）

担当課：国道・防災課  
担当課長名：川崎 茂信

事業名	一般国道458号 <small>もとあいかい</small> 本合海バイパス		事業区分	一般国道	事業主体	山形県		
起終点	自： <small>やまがた</small> 山形県最上郡大蔵村本合海 至： <small>やまがた</small> 山形県最上郡大蔵村清水		延長	2.8 km				
事業概要	<p>一般国道458号は大蔵村において最上地域の二次生活圏中心都市である新庄市へ通じる重要な生活道路であるが、車道（橋梁）幅員が狭く歩道もないため、歩行者が危険な状況であるほか、線形不良等による渋滞の発生、更には大蔵橋の老朽化等の課題を有していることから、本事業は大蔵橋を架け替え、橋梁前後の線形不良箇所を解消するほか、歩道の設置により歩行者の安全と円滑な交通を確保するとともに新庄酒田道路升形ICへのアクセス機能を強化するものとして整備するものである。</p>							
H7年度事業化	—		H7年度用地着手	H8年度工事着手				
全体事業費	103億円		事業進捗率	89%		供用済延長	1.73 km	
計画交通量	2,890台/日							
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.1 (残事業) 1.3	総費用	(残事業)/(事業全体) 11/127億円 事業費：8.3/124億円 維持管理費：2.5/2.5億円	総便益	(残事業)/(事業全体) 14/133億円 走行時間短縮便益：7.7/97億円 走行経費減少便益：1.6/26億円 交通事故減少便益：4.8/10億円		基準年	平成26年
感度分析の結果	<p>(事業全体) 交通量：B/C=1.0~1.1(交通量 ±10%)      事業費：B/C=1.0~1.2(事業費 ±10%) 事業期間：B/C=1.0~1.1(事業期間±20%)</p>							
事業の効果等	<p>①国土・地域ネットワークの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大蔵村から最上地域の日常活動圏中心都市である新庄市へのアクセス向上が見込まれる。</li> <li>・現道等における大型車のすれ違い困難区間の解消により走行性の向上が図れる。</li> <li>・幅員狭小や線形不良箇所の解消により、走行性・安全性が向上し、交通の円滑化が図れる。</li> </ul> <p>②災害への備え</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急輸送道路に指定されているが、現道部には脆弱区間（線形不良）を抱えており、これを回避することにより機能強化が図れる。</li> </ul>							
関係する地方公共団体等の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H22年3月：「第3次山形県総合発展計画」策定</li> <li>・H22年3月：「山形県道路中期計画」策定（H26年3月改訂）</li> <li>・H24年3月：「やまがた県土未来図」推進指針改定</li> <li>・上記計画に位置づけられた施策や方針に基づき取り組む事業として推進している。</li> </ul>							
事業評価監視委員会の意見	対応方針（原案）のとおり「継続」が妥当である。							
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	上竹野遺跡において、平成26年度に試掘調査を行い、平成27・28年度に発掘調査予定である。							
事業の進捗状況、残事業の内容等	平成7年度に事業化、用地進捗率99%（事業費ベース）、事業進捗率89%							
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高盛土区間において、軟弱地盤対策工が必要となったため。</li> <li>・事業中区間において、埋蔵物調査が必要となったため。</li> </ul>							
施設の構造や工法の変更等	工事コストの縮減等、総コストの縮減に努めていく							
対応方針	事業継続							

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



- ※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
- ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。